

ミュージカル「龍馬！」公演

わらび座ミュージカル「龍馬！」が7月19日、文化会館で公演されました。

このミュージカルは、幕末の英雄「坂本龍馬」が懸命に走り回って生き抜いた青春をユーモアを交え、爽快に描いたものです。

この日は市民など約420人が来場。和装でタップダンスやフラメンコを踊る場面や、ミュージカルの中で「信じ合えば世界はひとつ」と歌う龍馬の歌声などに観客からは感動のため息が漏れていました。



インターネットで姉妹都市交流

姉妹都市提携20周年を記念して本市とオーストラリア・マッカイ市とのインターネット中継が7月22日、市役所市民ホールで開催されました。

この日は、市の代表や松浦市国際親善協会の会員などが集まり、マッカイ市の議場とをつないだインターネット中継で互いに祝いのコメントを伝えました。マッカイ市の姉妹都市委員の皆さんからは「松浦市を訪れたときは、とても親しみを込めて迎えていただき、初めて行った気がしませんでした。また松浦市に行きたいです」と心温まるメッセージをいただきました。

20周年記念式典は、マッカイ市の市民訪問団受け入れに合わせて11月28日に松浦市で開催する予定です。



「長崎の鐘」再演

本市出身の劇作家岡部耕大さんが脚本、演出を手掛けた舞台劇「長崎の鐘」が7月16日、文化会館で公演されました。

この演劇は自身も被ばくしながらも、救護活動に当たった故・永井隆博士の半生を描いたもの。本市では、昨年につき2回目の公演となりました。

この日は市民など約200人が来場。原爆投下後に焼け跡から妻の亡きがらを見つける場面や、がれきの中から掘り出された天主堂の鐘を再び浦上の街に響かせる場面では涙する観客もあり、公演が終わると惜しめない拍手が送られました。

まちの話題



自慢ののどを披露

七夕の夕べ第2回カラオケ大会（松浦商工会議所女性会主催）が7月18日、きらきら21で行われました。

地域活性化を図ろうと昨年から開催しているものです。この日は、市内の銀行や病院、警察など10組が歌やパフォーマンスで約200人の観衆を楽しませました。松浦警察署チームは歌の披露の前に、振り込め詐欺への注意を呼び掛け、電源開発チームは自転車をこぐなどして発電を表現しながら歌を披露しました。また、中央公園には11団体がそれぞれ飾り付けをした七夕飾りが20日まで展示され、七夕コンテストも行われました。カラオケ大会の上位の結果は次の通りです。



①まつらハイキーズ（松浦高校）②メタボシスターズ（田中病院）③ディライト（カラオケチップトップ）

審査員特別賞 安全・安心・6レンジャー（松浦警察署）

女性会会長賞 松浦衛生事業協同組合

夢は叶うもの

御厨地区青少年健全育成会（西崎光会長）主催の講演会が7月30日、御厨公民館で開催されました。

不慮の事故で両腕を切断し、その後義手で詩や絵の創作活動を通して多くの人を魅了している熊本県の大野勝彦さんが「夢は叶うもの」と題して講演を行いました。

両手を切断したことにより家族や人の優しさに触れ、感謝の気持ちを強く抱いた大野さんは、「皆さんにお返しをしたいと思った。また母を泣かせまいと母が望んだ美術館を建設することを夢に持ち、その一心で美術館を完成させた」と話しました。この日集まった約150人は、目頭を押さえたり、冗談話に笑ったりしながら聞き入っていました。



人生のゴールは無限

青少年育成ココロねっこ運動推進長崎県大会が7月26日、文化会館で開催されました。

この日は「いまどきの子どもの携帯・ゲーム・ネット事情」と題してNPO法人「子どもとメディア」専務理事古野陽一先生の講演と、「ゴール無限」と題してメキシコオリンピックマラソン銀メダリストの君原健二先生の講演が行われました。君原先生は「スポーツを通して多くのものを得ることができた。充実した人生を生きるには常に目標を持つこと。人生のゴールは無限、自分の目標に向かってそれぞれ頑張ってもらいたい」と話しました。

慶應大学生が松浦市を調査

慶應義塾大学の准教授と10人の学生による市内調査が7月29日から4日間、市内各地で行われました。

これは、県の「地域の強みを活かした地域力向上支援事業」を活用し、「まつうら食・歴史・自然満喫観光ルートの創出」というテーマで取り組んでいる調査事業。本市を訪れたことのない都市部の若者の視点から、魅力ある観光ルートの検討および新たな観光資源の掘り起こしを行っていくものです。

今回は、不老山総合公園、初崎つばき群生林、モンゴル村などの景観・観光施設調査のほか体験型旅行事業の体験や福島町海の駅での交通調査などを行いました。今年度中に調査報告を取りまとめ、来年度からは専門家によるアドバイスを受けながら、報告に基づいた具体的な施策に取り組み、地域産業の振興、観光振興、景観整備につなげていく予定です。



なんでマン大活躍！

第14回長崎県子ども舞台芸術祭典「なんなんなんでマン」の公演が8月1日、文化会館で行われました。

松浦子ども舞台芸術祭典実行委員会（川副榮子実行委員長）が、生の舞台を見ることで、親子が同じ目線で語り合う話題づくりと、子どもが思いやりや感謝の気持ちなどを学び、心豊かに育ってくれることを願い、毎年開催。この日集まった子どもや保護者など約250人は、間近で繰り広げられる舞台に次第に引き込まれ、出演者が悪者に食べられるシーンでは泣き出す子どもも出るなど真剣に観劇し、会場は笑いや拍手に包まれていました。



大崎ビーチで初ライブ

サンセットライブ in おおさき（まつうら・ミュージック・パーティー主催）が8月1日、大崎海水浴場特設ステージで開催されました。

ライブには、市内のほか平戸市、波佐見町など約15組のバンドが出演。東京都出身で雲仙市在住のフォークシンガー川田金太郎さんの司会で約6時間のライブが開催され、終了後には花火が打ち上げられました。会場には地元青年団（OBC）による出店も並び、集まった地域の人や若者約500人は、演奏されるバラードに聞き入ったり、歌を口ずさんだり、音楽に合わせて体を動かしたりして音楽を楽しみました。来年も市内の景勝地で開催予定です。

